（別紙様式１－１）

① 申請者	江差町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E

③ タイトル

江差の五月は江戸にもない　－ニシンの繁栄が息づく町－

④ ストーリーの概要（２００字程度）

江差（えさし）の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りには、切妻屋根（きりづまやね）の建物が建ち並び、暖簾（のれん）・看板・壁にはその家ごとの屋号（やごう）が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。

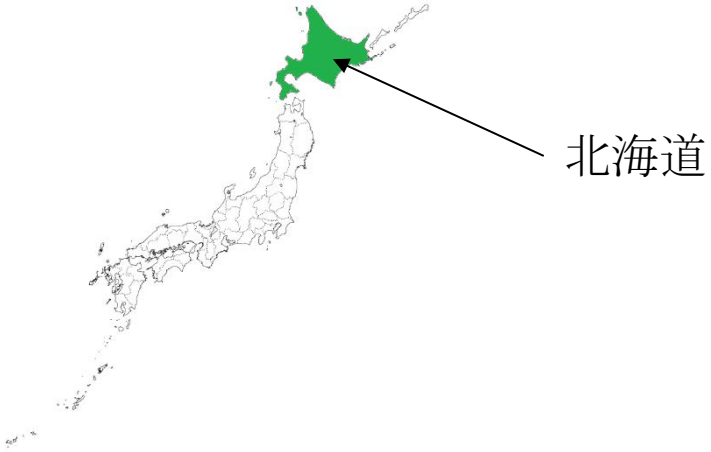
この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とニシン加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。

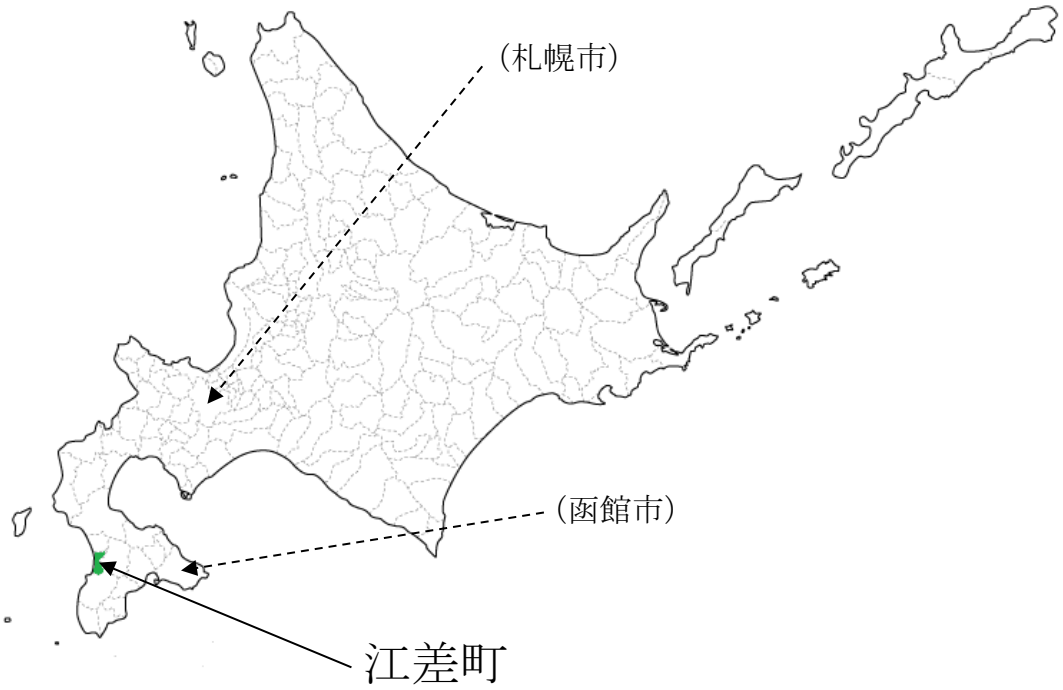
ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く息づいている。

ニシンによる繁栄が息づく江差の町並み

ニシンを用いた食文化

市町村の位置図（地図等）





構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す
（様式３－１の番号に対応させること）

出展：国土地理院ウェブサイト（http://www.gsi.go.jp/）

■拡大図１

出展：国土地理院ウェブサイト（http://www.gsi.go.jp/）

■拡大図２

出展：国土地理院ウェブサイト（http://www.gsi.go.jp/）

※複数ページにわたっても可

ストーリー

１．江差テイスト

江差町は北海道南西部に位置し、日本海に面しています。

海岸線に沿った段丘の下側には、切妻屋根の建物が建ち並ぶ町並みが伸び、それらの建物の暖簾・看板・壁には、簡単な記号を組み合わせて表現される屋号が掲げられています。その読み方を考えながら散策すると町並み歩きも一層楽しむことができます。

町並みから海側へ降る坂道の小路に入ると、建物が土地の傾斜に沿って階段状に下がって、基礎の石垣も建物ごとに段差が付いていることがわかります。建物は木造のように見えますが実は漆喰壁の土蔵造りで、冬の激しい風雪から漆喰壁を守るために、建物全体を組み合わせた板で覆っています。深い青色をした石組みの基礎も見事です。

段丘に登り振り返ってみれば、赤や黒の瓦屋根の向こうにカモメが羽を広げた形をしているかもめ島を望むことができ、その眺望に感動します。

これらのテイストは、江差の地形とニシンの産業が創り出したもので、江戸を凌ぐともいわれた繁栄を伝えるものなのです。

江差市街地とかもめ島

切妻屋根が建ち並ぶ町並み

傾斜地に階段状に
下がっている蔵と小路

２．江差発展の基、ニシン漁と交易

江戸時代前期の江差は、海岸沿いに小さな村が連なる人口も少ない所でしたが、ニシンがやってきたことによって繁栄していきます。

１６７０年ごろの様子を記した『津軽一統史』には、ニシン漁場の江差には、道内だけでなく東北地方からも漁民や商人が集まってきている、と記されています。

江戸時代に江差を治めていた松前藩は、豊かなニシン漁場であることや、江差沖に浮かぶかもめ島が天然の防波堤として使えることから、江差をニシン加工品などを扱う藩指定の交易港としました。海岸段丘の下側に這うように伸びている、暮らすには不向きな狭い傾斜地に町並みが作られていったのは、ニシンをメインにして作られたからなのです。

ニシン漁と交易がますます隆盛になっていくと、近江国（滋賀県）や北陸地方から多くの商人が江差に渡ってきました。今でも、町並みに面した商家の店や、その奥に続くニシン蔵を見ることができますが、それらは本州から渡ってきた商人が遺した建物です。

もっとも海側にある蔵は「ハネダシ」と呼ばれ、その外壁にはかもめ島に停泊した交易船からも取引先の商家がわかるように、大きな屋号が掲げられました。この屋号は、商家の暖簾や漁家のニシン漁具など様々な道具にも記されました。

かもめ島にある江戸時代の
交易港跡

壁に掲げられた屋号

建物の基礎や社寺の参道などには、雨に濡れるとより深い青みを増す、越前国（福井県）で産出された笏谷石が用いられています。このような石材は、近在で代替品をまかなうこともできましたが、経済的に発展していた当時の江差では自前で調達するのではなく、商品として購入するほうが手っ取り早かったのです。

また、建物の屋根には、若狭国（福井県）・能登国（石川県）・石見国（島根県）などで作られた様々な瓦が葺かれていて、段丘の上から見ると赤や黒など様々な色彩の瓦屋根を楽しむことができます。

町並みの所々には、海側へ出るための小路が伸びています。ニシン漁は早春に行われましたが、江差の浜にニシンがやってくると、近隣から漁民がやってきて漁をしますが、その時には町並みに暮らす商家の人たちもこの小路を通って浜へ出て、漁を手伝いました。

深い青みが特徴の笏谷石

様々な色彩の屋根瓦

３．発展による文化の展開と伝承

ニシンの漁と交易で繁栄した江差には、ニシン漁が行われるようになった由来を語り継ぐ伝説や、ニシン漁に関係する芸能など、この地で生まれた文化が伝わっています。

また、交易船に乗っていた人達によって伝えられた唄が江差の情景に合わせた歌詞に変わったり、本州の食文化が江差の産物を用いたものに変わったりと、交易や移住者によってもたらされた各地の文化がこの土地の風土に合わせた形で伝承もされています。

また、繁栄によって豪華になっていった祭礼や年中行事なども、江戸時代から現在にまで連綿と伝承されています。

ニシン漁の様子を伝える
江差沖揚音頭

繁栄により豪華に
なっていた祭礼

４．ニシンの繁栄が色濃く残る町、江差

このように、江差はニシン漁とその交易によって繁栄をしました。

江戸時代後期に江差を訪れた古川古松軒は、江差の町並みは端までも貧家がなく、浜辺にも蔵が建ち並んでいる、江戸を出てから建物・人物・言語など江差ほど良い場所はない、と『東遊雑記』に記しています。

ニシン漁が終わり、ニシン加工品を求めて各地から交易船や人々が江差港にやってくる旧暦５月ごろの賑わいは、後に「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。

町並みを歩き、文化に触れ、交易船の停泊港でもあったかもめ島を散策して対岸に広がる江差の町を臨めば、今でも色濃く残るニシンによる繁栄を体感することができます。

ニシンを材料とした食

（別紙様式３－１）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称（※１）	指定等の状況（※２）	ストーリーの中の位置づけ（※３）	文化財の所在地（※４）
1	江差の町並み	未指定	海岸段丘の下側に伸びている町並み。津花岬を角としてＬ字型に展開している。 ニシン交易を担った商家が切妻屋根を揃えて建ち並んでいる。 建物の暖簾・看板・壁には家ごとの屋号が掲げられている。	
2	旧中村家住宅	国重文	近江商人の大橋家が設けた出店で、後に中村家へ譲られた。 通りに面した主屋だけが店と住居で、残りの３棟は交易品などを保管する漆喰塗りの蔵。 屋根には灰色の若狭瓦が葺かれている。	
3	江差姥神町横山家	道有民	能登国（石川県）から移り住んできた横山家が構えた店。 通りに面した主屋以外は、交易品などを保管する蔵が一列に立ち並んでいる。	
4	旧檜山爾志郡役所庁舎	道有形	明治２０年（1887）に建てられた北海道庁の出先機関。 洋風建築であるが、基礎には深い青色の笏谷石が、屋根には黒い能登瓦が用いられていて、ニシン交易の影響をうかがうことができる。	
5	かもめ島	未指定	江差市街地の沖に浮かぶ南北に細長い島。 外洋からの風濤を防ぐ天然の防波堤であり、交易発展の基となった。	
6	折居伝説とその資料	未指定	江差にニシンがやってくるようになった由来を語る「折居伝説」を示す古文書や絵画資料。	

7	瓶子岩	未指定	「折居伝説」で語られる岩。神から託された瓶子が岩と化したもの。	
8	姥神大神宮	未指定	「折居伝説」でニシンをまねいた姥が祀っていた神像を、江差の人々が皆で祀るようになったとの由緒を持つ神社。	
9	北前船係船柱及び同跡	町史跡	かもめ島の北東にあるニシン交易船の係船跡。	
10	厳島神社	未指定	かもめ島に係船したニシン交易船の乗員たちが、航海安全を祈願した神社。 慶長２０年（1615）創建。	
11	厳島神社の石鳥居	未指定	加賀国橋立（石川県加賀市）の船頭たちが寄進をした鳥居。 天保９年（1838）の建立。	
12	厳島神社の手水石	未指定	江差商人の村上家と取引をしていたニシン交易船関係者が寄進をした手水石。 安政６年（1859）年の建造。	
13	かもめ島の階段跡	未指定	かもめ島の島上にある厳島神社へ参るための階段。 ニシン交易船の乗員が航海安全を願うため、江戸時代から設けられていた。	
14	江差商人の宴席跡	未指定	かもめ島の西側に広がる「千畳敷」に掘られた８つの柱穴。 ニシン交易で利益を上げた江差商人は、この地に仮小屋を建てて宴を催していた。	
15	ニシン漁とニシン交易の古文書	未指定	江差のニシン漁とニシン交易について記録した古文書資料。	
16	江差沖揚音頭	道無民	江差繁栄の基となったニシン漁の様を現在に伝える民俗芸能。	

17	江差鮫踊り	町無民	漁民がニシン漁の邪魔をするサメを駆除していたが、その霊を慰めるため行われたという民俗芸能。	
18	江差追分	道無民	ニシン交易で栄えた江差へやってきた船乗りたちによって伝えられたという民謡。	
19	江差追分踊り	町無民	江戸時代末、江戸から興行でやってきた歌舞伎役者によって振付けられたという、「江差追分」に合わせて踊られる芸能。	
20	江差三下り	道無民	ニシン交易で栄えた江差へやってきた船乗りによって伝えられたという民謡。	
21	姥神大神宮渡御祭	町無民	江戸時代から伝わる姥神大神宮の祭礼。	
22	江差姥神大神宮祭礼山車 松寶丸及び附属品	道有民	姥神大神宮渡御祭に出される山車。 弘化２年（1845）に作られ、交易船をかたどっている。	
23	江差姥神大神宮祭礼山車 神功山人形及び附属品	道有民	姥神大神宮渡御祭に出される山車に載る人形。 宝暦年間（1751～1764）に作られたとされ、神功皇后をかたどっている。	
24	江差餅つき囃子	道無民	ニシン交易で繁栄していた商家で行われていた年末の餅つきの様子を伝える民俗芸能。	
25	三平汁	未指定	豊富に獲れたニシンを用いた郷土料理。塩漬けや糠漬けにしたニシンを様々な野菜とともに煮たもの。	
26	ニシン漬け	未指定	豊富に獲れたニシンを用いた郷土料理。身欠きニシンと様々な野菜を麹とともに漬けたもの。	

（※１）文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

（※２）指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

（※３）各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にな

ないように注意すること）。

（※４）ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

（別紙様式３－２）

構成文化財の写真一覧

１．江差の町並み

２．旧中村家住宅

３．江差姥神町横山家

４．旧檜山爾志郡役所庁舎

５．かもめ島

６．折居伝説とその資料

７．瓶子岩

８．姥神大神宮

９．北前船係船柱及び同跡

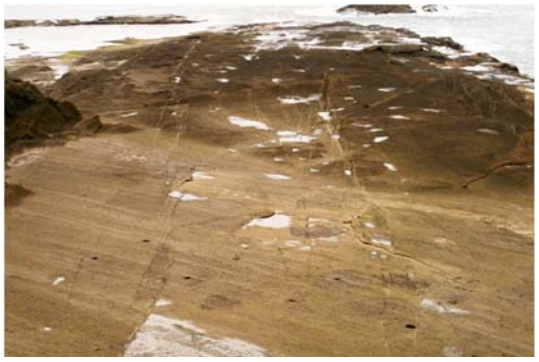
１０．厳島神社

１１．厳島神社の石鳥居

１２．厳島神社の手水石

１３．かもめ島の階段跡

１４．江差商人の宴席跡



１５．ニシン漁とニシン交易の古文書

１６．江差沖揚音頭

１７．江差鮫踊り

１８．江差追分

１９．江差追分踊り

２０．江差三下り

２１．姥神大神宮渡御祭

２２．江差姥神大神宮祭礼山車松寶丸及び附属品

２３．江差姥神大神宮祭礼山車神功山人形及び附属品

２４．江差餅つき囃子

２５．三平汁

２６．ニシン漬け

※複数ページにわたっても可

（様式４）

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
38	江差の五月は江戸にもない～ニシンの繁栄が息づく町～

（１）将来像（ビジョン）

当町の人口は、日本遺産に認定された平成29年には7,956人でしたが、6年後の令和5年では6,874人と、1,000人以上減少し、人口減少に歯止めのかからない現状となっています（ともに3月末の住民基本台帳人口）。

主要な原因の一つとして、当町は、檜山地域の中核として国や北海道の機関が設けられていることから公務員の人口に占める割合が他地域よりも高いこともあり、第三次産業、特にサービス業の比率が圧倒的に高くありましたが、国・道の機関の減少や、職員の減少に加え、全国的な人口減少も相俟って、サービス業の衰退が著しく進みました。それにより働く場も減少し、若者が町外に転出するなどしたことが挙げられます。

そういった状況の中でも、町民の誰もが未来へ希望を抱くための取り組みが不可欠であると考えており、日本遺産のブランド力を活用し、当町が保有する歴史的・文化的資源の魅力を国内外に発信しながら、例えこのまま人口減少が続いたとしても、日本遺産の構成文化財の維持保存や活用などにより交流人口を増やし、地域の賑わいを持続させ、もって地域の方々が誇りと郷土愛をもち、地域の歴史と文化を将来へ繋げていくようなまちづくりを目指します。

各種計画との関係においては、現在「第2期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「日本遺産認定を活かした取り組み強化による観光ブランド化の推進」を掲げていますが、令和7年度からの次期戦略においても本計画の事業を具現化させるための施策の方針を盛り込みながら、「日本遺産」を観光まちづくりの中核として位置付けてまいります。

日本遺産を軸にした将来の町の姿は次のとおりです。

○来訪者の姿

ニシン漁とその交易によって繁栄と文化がもたらされた江差。そんな時代から今も継承されている有形無形の歴史的・文化的資源に触れ、往時に思いを馳せて、北海道では函館や松前とともに、有数の古い歴史と文化を有していることを知ることができます。

また、構成文化財の一つである江差追分は、国内外に支部があり、会員数約2千人を誇る日本を代表する郷土芸能です。およそ60年前から当町で全国大会を開催しているほか、愛好者向けセミナーも開催しており、大会期間中のみならず日本各地から多く追分ファンの方々に来ていただいています。

日本遺産のストーリーがこういった交流人口づくりの柱となるよう資源の魅力を伝える環境を整備しながら、二度三度と訪れていただいても常に新しい切り口を発見することができます。

〇地域住民の姿

町民の日常生活において、日本遺産の構成文化財は身近であり個々に何らかの形で保存・伝承・活用してきています。また、構成文化財以外でも「ニシン文化」は、町民が参加するニシン稚魚の放流やヒノキ山の植林事業、地域の若者と大学生が継続して行ってきているニシンを題材としたイベントなど、様々な分野や場面で地域住民の生活に溶け込んでいます。

今まで意識してこなかったことが、自分たちの生活にいかに身近で溶け込んでいるか、いかにこの地域を支えてきたものかを再認識し、かけがえのないものとして、現在より一人でも多くの町民が日本遺産ストーリーや構成文化財を観光客に伝えられる「語り部」となっています。

また、地域の児童生徒の多くは380年続く「姥神大神宮渡御祭」や各種郷土芸能を体感していますが、こういった密接な歴史・文化以外についても、小中学校におけるふるさと学習の機会で体感し、義務教育を終えた後でも、地元愛がしっかりと根付き地元の歴史と日本遺産を語れるようになっています。

〇民間事業者の姿

交流人口が増加することによって、特に日本遺産に興味があって訪れた方々が増えることで、事業者や各種団体、地域住民がチャレンジ意欲を持ち、既存の商品などのブラッシュアップや、新商品の開発などに取り組み、ショップでの品揃えや観光メニュー・体験メニューが充実し、持続可能な経済活動を続けることができます。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：日本遺産ガイダンス施設の来場者数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	2,775 人	3,341 人	4,125 人	5,000 人	10,000 人	25,000 人

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	無料休憩所として開放している「江差町会所会館」と観光案内人が常駐する「開陽丸青少年センター管理棟」にセンサーを設置し、来場する人数をカウント。 日本遺産のガイダンス機能を持たせるなどして来場者の増加を図り、新型コロナウイルス感染症の影響前の水準を超える数値を目指す。

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－Ａ：町内各イベント等での日本遺産アンケート調査						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	未実施	66%	未実施	70%	75%	80%
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和 4 年度 75%の目標設定に対し未実施となったが、今年度から催事やイベントで訪れた町内外来場者を対象とした調査を実施。アンケート調査を実施することによりイベントリピーターによって、日本遺産認定地域及び構成文化財があることが広く認知されることを踏まえて 5 ポイントの増を設定。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－Ａ：構成文化財のうちの主要 4 施設への入場者数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	20,880 人	21,624 人	30,269 人	31,000 人	38,000 人	44,000 人
目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産のストーリーを体感する事業を展開することによって、構成文化財のうちの主要 4 施設（旧檜山爾志郡役所、追分会館、旧中村家に加え、ガイダンス施設を兼ねる開陽丸）の入場者数が増加することが期待できる。 各施設からの報告で把握し、毎年、前年度を上回る来場者を目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－Ａ：「エエ町、江差宝箱会議」の着実な推進						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	－	－	－	2 回	2 回	2 回
目標値の設定の考え方及び把握方法	地域の歴史的・文化的資源を保存伝承、活用するため歴史文化基本構想の趣旨である「地域に存在する指定、未指定に関わらない文化財」を総合的に保存・活用するための「エエ町、江差宝箱会議」を継続的に開催し日本遺産事業と連動していく。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－Ｂ：構成文化財の内、郷土芸能の公開						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	237 回	255 回	256 回	260 回	270 回	280 回
目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財の内、郷土芸能を積極的に公開し、魅力を国内外に発信することで誘客に繋げるとともに、発表の場を充実させることで将来に向けた持続的な保存伝承を図るため、江差追分会館や各種イベント等で公開する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－Ａ：観光客入込客数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	73 千人	72 千人	112 千人	150 千人	240 千人	324 千人
目標値の設定の考え方及び把握方法	北海道観光入込客数調査における市町村観光入込客数を指標として、コロナ前の令和元年度実績約 324 千人に向けて、今後 3 年間で回復を目指す。					

（３）地域活性化のための取組の概要

《現状、成果と課題》

平成 29 年度の日本遺産認定を契機に、町民の誇りと郷土愛、「自分ごと」といった当事者意識を持って日本遺産のブランド力を活用し、当町が保有する歴史的・文化的資源の魅力を国内外に発信しながら、来訪者の増加による経済基盤の強化（ヒト･モノ･カネの好循環）に取り組んでまいりました。

具体的には、構成文化財施設の多言語化やＶＲ・ＡＲの整備、子供たちの機運醸成を含めたイベント時におけるニシンのぼりの作成及び掲揚、観光ガイド養成講座の実施、各種イベントでの日本遺産ストーリーのＰＲなどを展開してきており、一定の効果はあったものと認識していますが、新型コロナウイルス感染症の影響や、取り組みの一翼を担う地域ＤＭＯの北海道江差観光みらい機構の人材不足などのほか、日本遺産の構成文化財があまりにも永く身近で慣れ親しんだものが多かったため、日本遺産であるということの意味・意義が十二分に捉えられなかったことによる地域全体の機運醸成不足も否めず、戦略の見直しを進めます。

《地域全体での取り組み》

〇来訪者が日本遺産を体感できる取り組み

・日本遺産ホームページコーナーの新設
・ＳＮＳによる情報発信体制の強化
・日本遺産ガイダンス施設の新設
・構成文化財を巡るツールとして散策マップなどの作成

観光客が訪れる前あるいは訪れて現地入りした際に日本遺産認定地であることが体感できる整備を行います。

これまで日本遺産に関する情報を統一的一元的に掲載したホームページはありませんでしたが、日本遺産のストーリーと構成文化財を紹介するほか、「タビマエ情報（江差を訪れる前に知ってもらう情報）」「タビナカ情報（訪問している最中に必要と思われる情報）」などを、見やすく網羅したホームページを立ち上げるとともに、ＳＮＳを使った新鮮な情報発信が可能な体制の強化を行います。

また、これまで構成文化財である旧檜山爾志郡役所に設けていた「日本遺産紹介コーナー」を、誰もが無料

日本遺産HPのイメージ

バナー名称	紹介する内容
日本遺産ストーリー	
ストーリーを伝える構成文化財	
ニシンは魚に非ず	往時のニシンの役割、写真
モデルコースの紹介	ガイダンス施設の紹介と、散策マップの紹介
日本遺産ガイドをご活用ください	ガイド協会が有料で案内する日本遺産ポイント
電動自転車で回る日本遺産	どこでどう借りられるのか、楽しみ方
日本遺産を楽しむ～屋号巡り	屋号の説明と屋号巡り
日本遺産を楽しむ～北前寄港地の足跡	福井など各地の瓦や釈谷石を見られる場所
動画で楽しむ日本遺産	交付金で制作した動画
季節の行事	イベントへのリンク
ニシンの群来	群来の説明、動画
ニシン料理	代表的なニシン料理と食べられる季節、お店
交通～江差まで、江差の中で	空港・新幹線駅からの交通、町内での交通
「もっと江差」～泊まりませんか？	宿へのリンク
「もっと江差」～歴史編	構成文化財以外の文化財（開陽丸記念館など）
「もっと江差」～食編	江差ならではの食べ物
「もっと江差」～アドベンチャー	かもめ島回りの遊びや遊漁船など
「もっと江差」～語り部	お祭り、町並み、追分、などを語れる方
「もっと江差」～近隣観光スポット	近隣町村の魅力的な観光スポット

で休憩できてかつ構成文化財が身近に残るいにしえ街道の「江差町会所会館」と、観光施設として一番来館者が多く、構成文化財が点在するかもめ島近接の「開陽丸記念館」に併設している観光案内所の2か所へ設け、ニシン漁で栄えた往時の写真や古文書、古地図、道具・調度品、伝承の語りなどによって「江差の五月は江戸にもない」と謡われた往時の姿を想像でき、町を訪れると自ずと日本遺産に触れられたという実感を強く感じられることのできるガイダンス施設としてリニューアルします。
「知っていただく」から「体験」につなげるため、新たに日本遺産の構成文化財の周遊マップ、散策マップを作り、ガイダンス施設から構成文化財の紹介とそれらを巡るルートの提案や、北海道江差観光みらい機構（ＤＭＯ）が展開している「かもめ島の歴史を紹介する体験プログラム（うみの日本遺産ウォーク）」など、団体でも個人でも周遊できる環境を整えます。現地に来た時には、ニシン繁栄時の町の息吹を五感で感じられ、日本遺産の価値の共有、共感ができるような工夫ができないか民間の関係団体と協議しながら検討していきます。

〇日本遺産を地域の経済活動につなげる取り組み
・ニシンの食や加工品の商品化に携わる会の組織化
・商品開発やパッケージデザインなどの情報交換の場の設置
・日本遺産認定地における先進的な取り組みを学ぶ場の設置
・レンタカーの活用による脆弱な2次交通対策の検討
・江差観光ガイド協会との共同による「日本遺産ストーリーガイド」の構築、販売
・電動アシスト自転車による「自転車周遊コース」の観光メニューの開発
・近隣町や函館圏との観光周遊コースのパッケージ化
・江差マース（町内巡回デマンド交通）の観光への活用を検討
　観光において食は大きな柱です。
　認定された翌春にニシンの群来が104年ぶりに確認され、認定ストーリー「江差の五月は江戸にもない～ニシンの繁栄が息づく町～」を更に活気づけました。その後も毎年群来が確認されております。当町では、構成文化財であるニシン漬け・ニシン三平汁が継承はされてきていましたが、実際に生業として漁業者がニシン漁の網を入れ始めたのは最近のことで、近年は漁獲量も安定しており、ようやくニシンの旬である春先にはスーパーの魚売り場へニシンが並ぶ光景が日常化してきました。これを契機に「ニシン」を中心とした食を誘客要因の一つとするため、「江差に行ったらニシンを」となる事業展開の模索をしていく必要があります。
　ニシンの食や加工品の商品化に既に携わる収益事業者に呼びかけたうえで、新たな商品開発やパッケージデザインなどの情報交換の場を行政や江差町観光まちづくり協議会に設け、日本遺産認定地における先進的な取り組みを学ぶ場を設置し、地域活動、経済活動、好循環スタイル確立の実践事例の中から、当町での取り組みの参考となる事例を学ぶ機会を創設します。
　また、観光の主要なターゲットのひとつは函館市を中心とした道南在住者と、公共交通で函館圏へ来てくださった方々で函館圏内から足を延ばすことを考えている旅行者、加えて「歴史」に関心の高い全国の方々と捉えていますが、課題としては、地域的に2次交通

でのアクセスが脆弱であることが挙げられ、レンタカーの利用がインセンティブとなるような取り組みの可能性を模索していきます。また、観光パッケージの厚みを増すために当町単体ではなく、近隣町や函館圏の観光資源、観光メニューとの連携やパッケージ化などにより、当町を訪れる機会の拡充を図ることも視野に入れた施策の企画や、北海道博物館で、単独で道内唯一の日本遺産に認定された江差の紹介をしてもらうことなども検討します。北海道博物館を訪れる方は、歴史や遺産、地域文化などへの興味が比較的高いと思われるので可能性を追求します。

江差へ来て日本遺産を楽しむコンテンツとして、江差観光ガイド協会と共同で日本遺産のストーリーとその構成文化財を紹介するガイドコンテンツ、あるいは有料電動アシスト自転車による「自転車周遊コース」の構築や、現在、町民を対象として実証実験をしているＡＩを使った江差マースの観光への活用などを検討し、来訪者の利便性を高めながらも地域の収益化を期待できる事業について取り組んでいきます。

〇住民の日常とニシン文化の関連性の啓発の取り組み

・「普通に日常にある」日本遺産を啓発

・学校におけるふるさと学習の継続

前述したとおり、日本遺産の構成文化財は、地域住民に身近で慣れ親しんだものが多い他、構成文化財に直接関係していませんが、間接的に関わっている活動も地域住民の日常に潜在化しています。

こういった「普通に日常にあること」がそのまま日本遺産と繋がっているという点を啓発することに力を入れることで、日本遺産の利活用の機運を高めていきます。

また、江差の繁栄を築いたニシンは大正時代に枯渇しましたが、平成 29 年、104 年ぶりに確認されたニシンの群来（くき）は、以降毎春のように現れ漁獲量も増加してきています。

ニシン漁獲量（H28～R5年）

年	H28	H29	H30	R元	R２	R３	R４	R5
漁獲量	0.2ｔ	0.8ｔ	2.9ｔ	2.9ｔ	6.5ｔ	6.1ｔ	8.2ｔ	18ｔ

これは近年、地域全体で実施してきたニシン稚魚の放流はもちろん、海の環境保全も意識したヒノキ山復活の事業が大きく影響していると自負していますし、今後も継続しなければいけません。地球規模で将来の食料確保に不安が募る中、世界的に注目されるようなケースとして日本遺産活動とＳＤＧｓ活動を連動させた取り組みを、「企業版ふるさと納税」を通じながら支援いただけるよう、全国の企業にアピールを行い、持続的に活動できることを目指します。

一方で学校教育においても、町内全小中学校で進める「ふるさと江差に心の向く教育」において日本遺産ストーリー（過去）と今の江差の形成あるいは日常生活の中に根付いていることを想像できる学習の場を継続して設けていきます。最終時限にはアンケート調査を行い、児童生徒の意識の中に日本遺産や構成文化財がどう認識されているかを把握し、ニシン文化を将来に継承していきます。

（４）実施体制

○実施主体　「江差町観光まちづくり協議会」⇒会長：江差町長

■構成団体

区　分	団　体　名
行政	江差町
産業団体	江差商工会・ひやま漁業協同組合江差支所・新函館農業協同組合江差支所 江差建設協会
観光団体	江差観光コンベンション協会・一般財団法人開陽丸青少年センター 一般社団法人北海道江差観光みらい機構（ＤＭＯ）・江差観光ガイド協会
郷土芸能団体	江差追分会・江差町民芸団体連絡協議会
町民団体	江差町町内会連合会
地域活動団体	江差町歴まち商店街協同組合・江差町地域活性化協力隊
交通機関	ハートランドフェリー江差支店

＜事務局＞　江差町役場追分観光課（専属職員配置　※事務局長）
一般社団法人北海道江差観光みらい機構（ＤＭＯ）

○役割

江差町観光まちづくり協議会は、毎年度、中長期展望を確認したうえで翌年度事業の構築を行います。

その方針を決めるにあたり、当該年度計画の実施状況を把握し、適宜方向修正し目標を達成できるよう、ＰＤＣＡサイクルを確認・検証を行い、進捗管理をしていく機関として位置付けます。（年数回協議会を開催）

そのため、これまで江差町観光まちづくり協議会事務局長を外郭団体に担っていただいていましたが、役場組織である「追分観光課」へ新たに専属の職員を配置し、江差町観光まちづくり協議会長である町長と事務局の意思疎通と認識の共有を図りやすくするとともに事業の着実な実行につなげます。

■主な団体の役割

団体名	役　　割
江差町	必要な予算措置や関係各課との連携の調整、公的機関との連携の調整、日本遺産を含む地域全体の総合的観光施策の推進。江差町観光まちづくり協議会事務局として、他の構成団体との連携調整
北海道江差観光みらい機構（ＤＭＯ）	体験観光における日本遺産の意識付け 情報発信の推進
江差観光コンベンション協会	ニシンの日の周知。町内観光施設見学会（町歩き）における日本遺産啓発
江差観光ガイド協会	一般町民を巻き込んだガイド研修・育成
江差追分会	後継者育成のための町民対象追分教室の実施
開陽丸青少年センター	ガイダンス案内カウント

〇連携・協力団体

・北海道（檜山振興局）・北海道教育大学函館校・飲食店・宿泊施設

★北海道教育大学函館校は観光に関する助言・提言を主に担い、他の連携団体・民間事業者は、それぞれの立場から、日本遺産を活用することができる自らの事業を実施していきます。

〇役場内プロジェクトチームの設置

町や教育委員会が取り組む事業で日本遺産のストーリーに多少なりとも関連している事業は少なくありません。先ずは職員自身が各事業に関して日本遺産ストーリーとの関連性を再認識し外へ発信するための情報共有と、各事業の効果的な実施について意見交換の場として、役場内に横断的なプロジェクトチームを設置します。

プロジェクトチームは、追分観光課が主催し、必要と思われる都度、開催します。

加えてニシンの食や加工品の商品化をはじめ、新たな事業化への支援のサポートを目的に、同チームで江差町観光まちづくり協議会や構成員の事業に関して、意見交換などをしていきます。

■主な課の関連事業

所管課	日本遺産関連事業
追分観光課	日本遺産担当（主管）
産業振興課	ニシン稚魚放流、ヒノキ山植林事業の際における日本遺産啓発 事業者の商品開発支援
まちづくり推進課	町広報記事における日本遺産啓発 ふるさと納税における日本遺産関連商品開発の支援 企業版ふるさと納税アピールに向けた取りまとめ クラウドファンディング型ふるさと納税の検討 江差マースの観光利用の検討
教育委員会	ふるさと江差に心が向く教育における日本遺産啓発 歴史文化基本構想推進に向けた「エエ町、江差宝箱会議」の実施

［人材育成・確保の方針］

来訪者が日本遺産のストーリーを体感するのには、江差観光ガイド協会や地域住民が歴史を語る「語り部」が大きく寄与するものと考えています。ガイドや語り部が少なくとも現状を維持し、可能であれば増加することができるよう、「(3) 地域活性化のための取組の概要」で記載した「住民の日常とニシン文化の関連性の啓発」を行うことで、構成文化財の保存伝承や活用に関わるプレーヤーに対し、それぞれの活動において日本遺産をしっかり定着させる取り組みを進めていくこととします。

また、江差観光ガイド協会や観光関連団体を巻き込みながら、イベントの企画・実施や情報発信など他分野での地域プレーヤー、次世代の地域プレーヤーづくりを進めます。こういった取り組みは、江差町が包括連携協定を締結している北海道教育大学函館校の学生の参画・アイデアで基盤づくりを進めます。

なお、各団体との連携や江差町観光まちづくり協議会の体制強化を図るため、今後、専

属職員（役場内）を配置しますが、3 年間でしっかりと体制強化を図り、将来に向けて、ＤＭＯである北海道江差観光みらい機構がその任を担えるよう立て直し及び人材育成を図っていきます。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

来訪者の中心的なターゲットとして据えられるのは、函館市を中心とした道南在住者、あるいは公共交通で函館圏へ来てくださった方々のうち函館市内から足を延ばすことを考えている方々となります。日本遺産の構成文化財は質・量ともに魅力あるものであると考えていますが、地理的要因（函館圏からの距離的・時間的な遠さ。直近の空港や主要駅も函館）などもあり、江差町観光まちづくり協議会等が自立・自走できるまでに財源を確保するほどの観光客を呼び込むことは、早期には困難であります。

そうした中、観光客の皆さんが数ある目的地から江差を選択していただくためには、日本遺産をはじめとした町の観光ラインナップと近隣町とスクラムを組んだ広域的な魅力を訴える必要があります。

広域的な視点での誘客	江差町	日本遺産	主　かもめ島
			主　江差追分
			主　姥神大神宮渡御祭
			主　江差の街並み
			２２構成文化財
		開陽丸記念館	
		マリンピング	
		海洋性スポーツ体験	
		紅ズワイガニ	
		五勝手屋羊羹	
	厚沢部町	館城址、道の駅あっさぶ	
	乙部町	シラフラ海岸、温泉宿	
	上ノ国町	勝山舘跡、ワイナリー	
	奥尻町	島観光、ウニ	
	松前町	松前城跡、マグロ	

町は日本遺産によるアピールとともに北海道江差観光みらい機構（ＤＭＯ）が取り組みを強化しているマリンピングや海洋性スポーツ体験コンテンツの充実、紅ズワイガニをはじめとした海鮮全般での食の魅力付けを並行して進めてまいります。

また、構成文化財の一つである江差追分は、国内外に支部があり、会員数 2 千人を誇る日本を代表する郷土芸能です。およそ 60 年前から当町で全国大会を開催しているほか、愛好者向けセミナーも開催しており、大会期間中のみならず日本各地から多くの江差追分ファンの方々に来ていただいています。さらに、8 月 9 日から 11 日に行われる姥神大神宮渡御祭では町の人口の 3 倍の方々がお見えになります。

こういった構成文化財である江差追分や姥神大神宮渡御祭などの文化遺産を中心に「江差ファン」が数多いのが、江差町の特徴だと考えています。

自立・自走に関しては、安定的に運営できるキャッシュフローを目指していくため、あらゆる面から「稼ぐ力」の向上に努め、「江差ファン」を中心に、保存・伝承・活用への支援あるいは江差への応援として、ふるさと納税・企業版ふるさと納税・クラウドファンディング型ふるさと納税による財政的支援をしていただきながら、江差町観光まちづくり協議会やＤＭＯが自立・自走できる環境を整えます。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

当町は、北海道でも有数の歴史を有していることや、全国的に知名度の高い江差追分発祥の地であることなどから、歴史や文化の保存・伝承に関しては意識が高く、いわゆるシビックプライドも醸成されているものと考えていますが、これらの意識が低下しないよう、継続して地域の歴史・文化が育まれてきた背景と、それぞれの文化財は唯一無二で維持することの大切さを啓発してまいります。

江差追分は 4 月から 10 月末まで江差追分の殿堂「江差追分会館」で、江差追分唄い手の名人が毎日実演を行い、来訪者にその魅力を伝えながらファンづくりを続けます。

町内全小中学校で進める「ふるさと江差に心の向く教育」において日本遺産ストーリーと今の江差の形成あるいは日常生活の中に根付いていることを想像できる学習の場を継続して設けていき、郷土芸能の伝承の機会の創出などで、世代が進んでいっても、地域の宝を知り・守ることができるような取り組みを進めます。

来訪者にはその魅力を知っていただき再訪したいと思わせる仕掛けづくりを、地域住民には今以上に日本遺産に認定されたことの誇りを感じていただき、一人ひとりがープレーヤーとしてその文化財の伝承者となっていただく活動につなげます。

（７）地域活性化のために行う事業

（７）－１　組織整備

（事業番号１－Ａ）

事業名	江差町観光まちづくり協議会の組織強化
概要	民間組織を構成員とし日本遺産を核とした地域振興を進めるため江差町観光まちづくり協議会組織を強化し、毎年度、中長期展望を確認したうえで翌年度事業の構築を進める。

	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会の強化	江差町観光まちづくり協議会事務局である行政組織（追分観光課）に専属職員を配置し、事業の進行管理や適宜方向修正を実施しながら目標を達成するようＰＤＣＡサイクルを確認、検証しながら事業の着実な実行を図る。	江差町 江差町観光まちづくり協議会
②	役場内プロジェクトチームの設置	町や教育委員会主催事業でニシン文化に紐づく行事を行政職員自身が認識するための情報共有と各事業の効果的な実施に向けた意見交換を実施するとともに協議会に提案する事業のブラッシュアップを図る。	江差町

③	収益事業関係者（民間事業者）懇談会	ニシン関連のお土産品等を作っている事業者と懇談会を組織化し、新たな商品開発やパッケージデザインなどの情報交換の場を創設しながら、事業者数の増加を図っていく。	江差町観光まちづくり協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	江差町観光まちづくり協議会開催	4 回
2021		4 回
2022		2 回
2023	江差町観光まちづくり協議会・プロジェクト会議	2 回
2024	江差町観光まちづくり協議会・プロジェクト会議 収益事業関係者懇談会	5 回
2025	江差町観光まちづくり協議会･プロジェクト会議･ 収益事業関係者懇談会	5 回

事業費	2023 年度：0 千円　2024 年度：5,000 千円　2025 年度：5,000 千円
継続に向けた事業設計	江差町観光まちづくり協議会の事務局である行政組織（追分観光課）に専属職員を配置し、江差町観光まちづくり協議会長である町長と事務局の意思疎通と認識の共有を図り事業の着実な実行に繋げる。

（７）－２　戦略立案

（事業番号２－Ａ）

事業名	江差町上位計画への位置づけ
概要	日本遺産を観光まちづくりの中核と位置付けるうえで、江差町第 6 次総合計画と第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略に反映させ持続的、継続的な日本遺産事業を推進する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	第 6 次総合計画	■計画期間：令和 2 年度～令和 11 年度 後期計画（令和 7 年度～）の際、これまでの事業内容を検証しながら本日本遺産地域活性化計画を踏まえた反映を行っていく。	江差町
②	第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略	■計画期間：令和 2 年度～令和 6 年度 令和 7 年度改訂の第 3 期まち・ひと・しごと創生総合戦略へ第 6 次計画同様、本日本遺産地域活性化計画を踏まえた反映を行っていく。	江差町

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	江差町上位計画への位置づけ	1 件
2021		1 件

2022		1 件
2023	江差町上位計画の位置づけ	1 件
2024	江差町上位計画の位置づけ	1 件
2025	江差町上位計画の位置づけ	1 件

事業費	2023 年度：0 千円　　2024 年度：0 千円　　2025 年度：0 千円
継続に向けた事業設計	江差町上位計画に反映させるため、江差町観光まちづくり協議会において、本日本遺産地域活性化計画の事業計画の実施状況の把握や適宜方向修正し目標が達成できるようＰＤＣＡサイクルを確認・検証を行い、進捗管理をしていく。

（７）－３　人材育成

（事業番号３－Ａ）

事業名	日本遺産を活用する人材の育成（郷土芸能担い手育成）		
概要	構成文化財の内、郷土芸能等の無形民俗文化財の担い手は少子高齢化により減少傾向にあるが、各保存会や教育委員会と連携し、担い手確保（人材育成）に努め、地域の宝である郷土芸能の伝承を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	郷土芸能担い手事業	郷土芸能の多くは構成文化財。保存伝承に向けた担い手育成に向け、各団体や教育委員会が現在実施している小中学校での体験授業や公開の場を提供し担い手確保に繋げる。	江差町 教育委員会 各保存会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	郷土芸能担い手事業	31 回
2021		44 回
2022		37 回
2023	郷土芸能担い手事業	45 回
2024	郷土芸能担い手事業	45 回
2025	郷土芸能担い手事業	45 回

事業費	2023 年度：100 千円　　2024 年度：100 千円　　2025 年度：100 千円
継続に向けた事業設計	郷土芸能担い手事業は、教育委員会と連携し各小中学校や高等学校、保育園、幼稚園などで継続実施しながら、地域の宝である郷土芸能に触れる機会を通じ、後継者育成（人材育成）に努め、将来に向けて保存伝承を図る。

（７）－３　人材育成

（事業番号３－Ｂ）

事業名	日本遺産を活用する人材の育成（ガイド等育成）
概要	日本遺産ストーリーを来訪者へ語るプレーヤーの発掘（増員）に向けたガイドや語り部などの人材育成を各種団体と連携し展開する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド協会研修事業	江差観光ガイド協会主催による観光関係団体を巻き込んだ学びの場を継続的に開催。 また、江差町観光まちづくり協議会支援のもと江差観光ガイド協会だけではなく語り部などのプレーヤーとの連携を図るため、交流や勉強会の実施によりスキルアップや参加者増員を図っていく。	江差観光ガイド協会 江差町観光まちづくり協議会
②	100 人の語り部事業支援	100 人の語り部は、100 人が語る町を目標に構成文化財が広がるいにしえ街道において活動を展開しているが高齢化により担い手が減少していることから相互に情報共有を図りサポート体制を維持していく。	江差町 江差町観光まちづくり協議会 江差観光ガイド協会 語り部の会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	ガイド研修会	－（未実施）
2021		－（未実施）
2022		－（未実施）
2023	ガイド研修会	1 回
2024	ガイド研修会（語り部支援含む）	2 回
2025	ガイド研修会（語り部支援含む）	2 回

事業費	2023 年度：100 千円　　2024 年度：200 千円　　2025 年度：200 千円
継続に向けた事業設計	高齢化により江差観光ガイド協会、語り部の人材育成については、大幅な増員は難しい環境ではあるが、来訪者に日本遺産ストーリーを体感するためには、ガイド等が大きく寄与するため、ガイド研修会や語り部支援による人材育成に努める。 そのためにも、1 の組織整備で記述のとおり、江差町観光まちづくり協議会の組織強化（専属職員）によりサポート体制を取ることで各団体と連携しながら事業実行していく。

（７）－４　整備

（事業番号４－Ａ）

事業名	ストーリーに関する施設等整備
概要	ガイダンス施設整備や周遊マップを作成し、拠点施設から各構成文化財への周遊に繋げ来訪者にストーリーを体感できる整備を実施。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイダンス施設整備	現在、日本遺産ストーリーを紹介している「旧檜山爾志郡役所（有料施設）」から、より多くの方々に触れてもらうため構成文化財が身近に残るいにしえ街道の「江差町会所（無料休憩施設）」と観光客が一番多く構成文化財が点在するかもめ島近接の「開陽丸記念館の観光案内所」の２施設に日本遺産紹介コーナー「ガイダンス施設」を整備。	江差町 江差町観光まちづくり協議会
②	日本遺産構成文化財マップ作成	構成文化財周遊マップ･散策マップを作成しガイダンス施設から構成文化財を巡る仕組みを構築する。	江差町 江差町観光まちづくり協議会
③	構成文化財看板整備	町内にある看板を再整備し、ガイダンス施設から構成文化財に誘客する看板の在り方を検討。	江差町 江差町観光まちづくり協議会
④	レンタカー会社との連携模索	集客のターゲットは函館市を中心とした道南在住者と公共交通機関で函館圏へ来訪された方としているため、2 次交通が脆弱なことからレンタカー会社との連携を模索し集客に繋げる。	江差町 江差町観光まちづくり協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	観光客入込数	73 千人
2021		72 千人
2022		112 千人
2023	観光客入込数	150 千人
2024	観光客入込数	240 千人
2025	観光客入込数	324 千人

事業費	2023 年度：0 千円　　2024 年度：3,150 千円　　2025 年度：700 千円
継続に向けた事業設計	施設やマップ、看板整備を行い来訪者へ日本遺産ストーリーを体感できる環境を整備し満足度を高め二度三度と訪れて思えるように事業展開をする。また誘客に向けてレンタカー会社との連携を模索して行く。

（７）－５　観光事業化

（事業番号５－Ａ）

事業名	ストーリーを体感できる商品の開発・販売
概要	日本遺産ストーリーにより経済効果を生み出すため、ニシン関連商品の開発・販売等を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ニシン関連商品の開発・販売	ニシン関連のお土産品開発や既存のニシン食品のパッケージなどを整備し、地元商店での販売やふるさと納税返礼品へ活用し経済効果を生み出す。	江差町観光まちづくり協議会
②	日本遺産周遊サイクル事業	既存の電動アシスト自転車（有料）を活用し４－Ａ②で作成した周遊マップと連動したレンタルサイクルを実施。	江差町観光まちづくり協議会 開陽丸青少年センター
③	日本遺産ストーリーガイド販売	うみの日本遺産ウォークなど日本遺産ストーリーに特化したガイドコースを作成し、後述するＨＰからの申込も可能としたガイド商品を販売。	江差町観光まちづくり協議会 江差観光ガイド協会 北海道江差観光みらい機構
④	日本遺産ストーリー観光商品化可能性調査	宿泊施設が少ない当町で、ストーリーや体験コンテンツを中心にいかに滞在時間を延長できる可能性について調査するとともに旅行業者と意見交換を実施。	江差町観光まちづくり協議会
⑤	「いにしえ街道」スイーツバルの開発・販売	構成文化財が多く残る通称「いにしえ街道」1.1ｋｍにはスイーツのお店が点在しており、回数券などでスイーツ店巡りと有料構成文化財をパッケージ化した商品の開発・販売を行う。	江差町観光まちづくり協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	関連商品数	0 件
2021		2 件
2022		0 件
2023	関連商品数	2 件
2024	関連商品数	3 件
2025	関連商品数	5 件

事業費	2023 年度：400 千円　2024 年度：1,100 千円　2025 年度：1,000 千円
継続に向けた事業設計	１の組織整備で記述のとおり、江差町観光まちづくり協議会の組織強化（専属職員）によりサポート体制を取ることで行政、民間事業者と連携しながら日本遺産に関連した商品開発をしていく。

（７）－６　普及啓発

（事業番号６－Ａ）

事業名	学校教育や町内ニシン関連事業での普及啓発活動
概要	地域住民に「普通に日常にある」日本遺産を啓発するとともに学校教育の学習の場で将来を担う児童生徒の意識の中に日本遺産や構成文化財を普及啓発していく。

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ストーリー巡りスタンプラリー事業	日本遺産の構成文化財をただ巡るのではなくクイズ形式を取り入れたスタンプラリーを展開し当町を訪れる中学校研修旅行への商品化を目指す。 クイズ内容等は町と包括連携協定を結んでいる北海道教育大学函館校と連携。	江差町観光まちづくり協議会 北海道教育大学函館校
②	ふるさと江差に心の向く教育における日本遺産の啓発	町内全小中学校で進める「ふるさと江差に心の向く教育」において日本遺産ストーリーと世代が進んでも地域の宝を知り守る取り組みを実施。	教育委員会
③	町内観光施設見学会	町民を対象として毎年実施している施設見学会において、単に構成文化財を巡るのではなく、日本遺産ストーリーを認識できるよう事業展開する。	江差観光コンベンション協会
④	ニシン稚魚放流	ニシンの資源回復に向けて実施している稚魚放流時に幼稚園児を招き、幼少期から日本遺産文化に触れる機会を創出する。	江差町
⑤	ヒノキ山植林事業	往時のヒノキ山復活と海を守る観点で進めている植林活動についても、ニシン文化に由来するものであることから、地域住民の日常にある普通が日本遺産の活動に繋がることを普及啓発する。	江差町
⑥	ニシンの日の取り組み	以前より毎月 24 日をニシンの日として町内の商店や飲食店、宿泊施設でニシン販売やニシン料理を提供している活動を継続し、地域住民、又は来訪者へ日本遺産文化を普及啓発する。	江差観光コンベンション協会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	普及啓発事業実施回数	27 回
2021		50 回
2022		37 回
2023	普及啓発事業実施回数	44 回
2024	普及啓発事業実施回数	45 回
2025	普及啓発事業実施回数	45 回

事業費	2023 年度：500 千円　2024 年度：500 千円　2025 年度：500 千円
継続に向けた事業設計	プロジェクトチーム（役場内）により、町の各事業において日本遺産に関連する事業内容を共有し、参加者に日本遺産の活動が「普通に日常にあること」の意識の醸成を図る。

（７）－７　情報編集・発信

（事業番号７－Ａ）

事業名	ＨＰにおける情報発信
概要	日本遺産ストーリーに関する情報とともに地域内外の人々が来訪する際に必要となる基本的な情報についてＨＰ等において情報発信を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産を紹介するＨＰの立ち上げ	来訪者の方々が江差へ訪れる前に日本遺産ストーリーをイメージできるような日本遺産に関する観光メニュー等の情報を統一的一元的に掲載したＨＰを立ち上げる。	江差町観光まちづくり協議会 北海道江差観光みらい機構
②	ＳＮＳによる定期的な情報発信システムづくりの構築	日本遺産に関連した各種イベント等のタイムリーな情報発信を行い、地域内外の方々に周知するとともに当町の取り組みをＰＲし誘客に繋げる。	江差町観光まちづくり協議会 北海道江差観光みらい機構 江差観光コンベンション協会
③	ニシン文化とつながりのある日本遺産ストーリーとのコラボ	ニシン文化で日本遺産認定となっている地域と連携を模索し、当町の日本遺産ストーリーを地域内外に発信していく。	江差町観光まちづくり協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	江差町観光情報ポータルサイトページビュー数	298,220 回
2021		387,340 回
2022		551,202 回
2023	江差町観光情報ポータルサイトページビュー数	560,000 回
2024	江差町観光情報ポータルサイトページビュー数	560,000 回
2025	新ホームページビュー数	300,000 回

事業費	2023 年度：1,500 千円　2024 年度：2,500 千円　2025 年度：2,000 千円
継続に向けた事業設計	新ホームページ立ち上げまでは、既存ポータルサイトを活用しつつ、新ホームページでは日本遺産関連情報を一元的に掲載するとともに、これまで作成した日本遺産動画なども活用しながらストーリーを体感できる情報発信に向け、江差町観光まちづくり協議会、北海道江差観光みらい機構（ＤＭＯ）と連携し取り組む。